

東京台東区谷中細幅織物工場 所有リボン現品調査



産業考古学会2015年全国大会（柏崎市）
2015年10月24日 柏崎市立図書館（ソフィアセンター）

権上かおる¹⁾，山崎範子¹⁾，菊池京子¹⁾，真鍋雅信²⁾，吉田喜一³⁾

1) 谷中のご屋根

会 2) 湍澤倉庫

3) 東京都立産業技術高等専門学校名誉教授

目 次

- これまでの経緯
- 細幅織物の定義
- 千代田リボン製織所の沿革
（台東区谷中初音町4-18）
- リボン現品調査とここまでの到達点

台東区谷中の明治期からの元リボン工場が2013年解体



リボン工場の鋸屋根部材

(2連分)

明治期の繊維文献(洋書)

リボンの見本帖

リボンの商品現品



谷中のこ屋根会
に寄贈される

谷中のご屋根会の目標

- 第2条（目 的）
- 本会は、東京でも優れた歴史性を持つ谷中の、上野台地と本郷台地に挟まれた低地にあった、明治43年に織物のリボン工場(旭プロセス製版)の解体に際し、近代織物工場の典型であるのこぎり状の屋根構造の部材の一部を保存し、旧谷田川(藍染川)沿いの歴史性を活かした商店や町並みの原資料として、この町での活用を目指すことを目的とする。同時に、文京区・台東区・荒川区などで、歴史ある建物の保存・活用をめざす方々と連携し、開発だけに依らない、暮らして楽しい町への模索と実践を目的とする。

のこぎり屋根の部材や資料について

①現地での保存・活用(×) → ②地域での保存・活用 → ③博物資料的保存・活用

なにより、
東京の中心地での、ものづくり（製造業）の
記録を残したい。

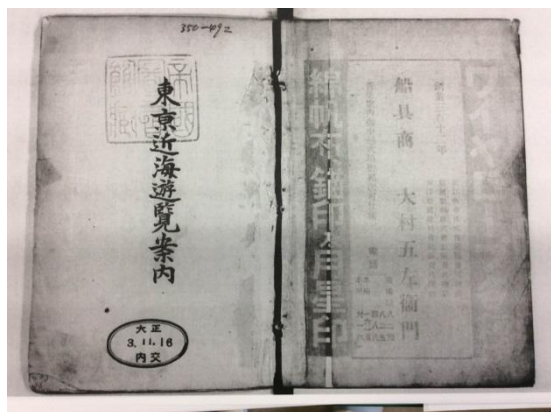
千代田リボン製織所の沿革

年代	出来事	出所
1896 (明29) ~ 1904 (明37)	岩橋謹次郎（白木屋創設者）岩橋リボン製織所が渋沢栄一らの出資により匿名組合として、創業。 帽子用リボンを製織。1904年に匿名組合解散	渋沢栄一関連 会社社名変遷 図 典拠資料 渋沢栄一記念 財団
1904 (明37)	三井財閥が買い取り東京リボン製織所	親族の証言 *年代正確には不明
1910 (明治43)	渡辺四郎が買い取り 千代田リボン製織株式会社	
1921 (大10)	渡辺四郎没	没後の状況は不明
1927 (昭2年)	工場長の青木道三の仲介で鈴木哲が買い取り、 千代田リボン製織所名で創業	鈴木哲の子息の証言 および5周年 写真



四郎兄；渡辺治右衛門(10代目)

渡辺四郎 千代田リボン製織



帽子用リボン各種
髪飾用リボン各種
装飾用リボン各種
化粧用リボン各種
絹綿テープ各種
其他小巾織物各種

東洋第一ノリボン工場

千代田リボン製織株式會社

社長 渡邊 四郎

東京下谷初音町、電話下、七四〇

倉庫 千代田

渡邊倉庫株式會社

取締役社長 渡邊治右衛門

東京市日本橋區本町川岸七十四番地

渡辺四郎父；渡辺治右衛門

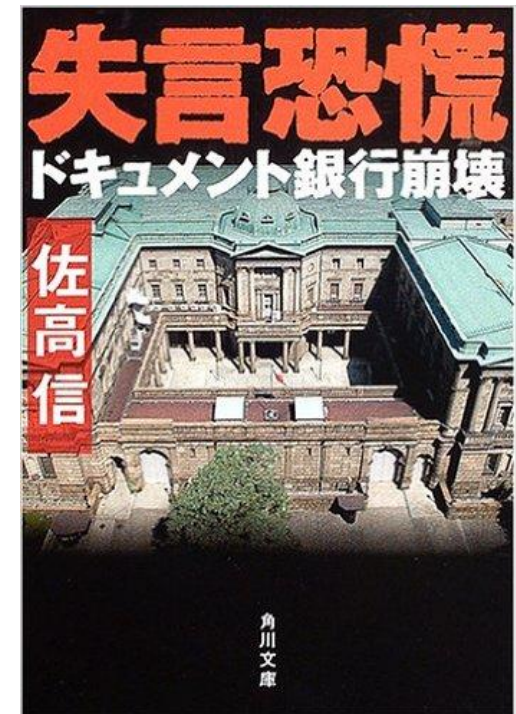
1872－1930 明治-昭和時代前期の銀行家

東京第二十七国立銀行,あかぢ銀行などを経営。
大正9年二十七銀行を東京渡辺銀行と改称。関東大震災後,
経営が悪化。

昭和2年3月14日片岡直温蔵相の
衆議院予算委員会での渡辺銀行破綻の
失言を契機に渡辺・あかぢ両銀行は休
業となり,これが金融恐慌の発端となる

1927(昭2年)

**工場長の青木道三の仲介で
鈴木哲が買い取り、
千代田リボン製織所名で創業**



1932（昭7）年4月14日
鈴木哲経営
「千代田リボン製織所」
満5周年記念式典写真
於；香取神宮

昭和七年四月十四日
満五周年記念撮影
於香取神宮廣前
千代田市製織所



昭和30～40年
頃まで操業は
続く

細幅織物の定義

幅130mmとも160mm以下とも言われる織物のこと

＜（福井県繊維資材工業組合45周年誌（2009年発行）分類＞

- ①織マーク（ネーム）
- ②織リボンー用途により、包装用と服飾・装飾用
- ③畳縁
- ④帯
- ⑤ひも類

＜明治時代後半には＞

下駄の鼻緒

パラシュートベルト

包帯

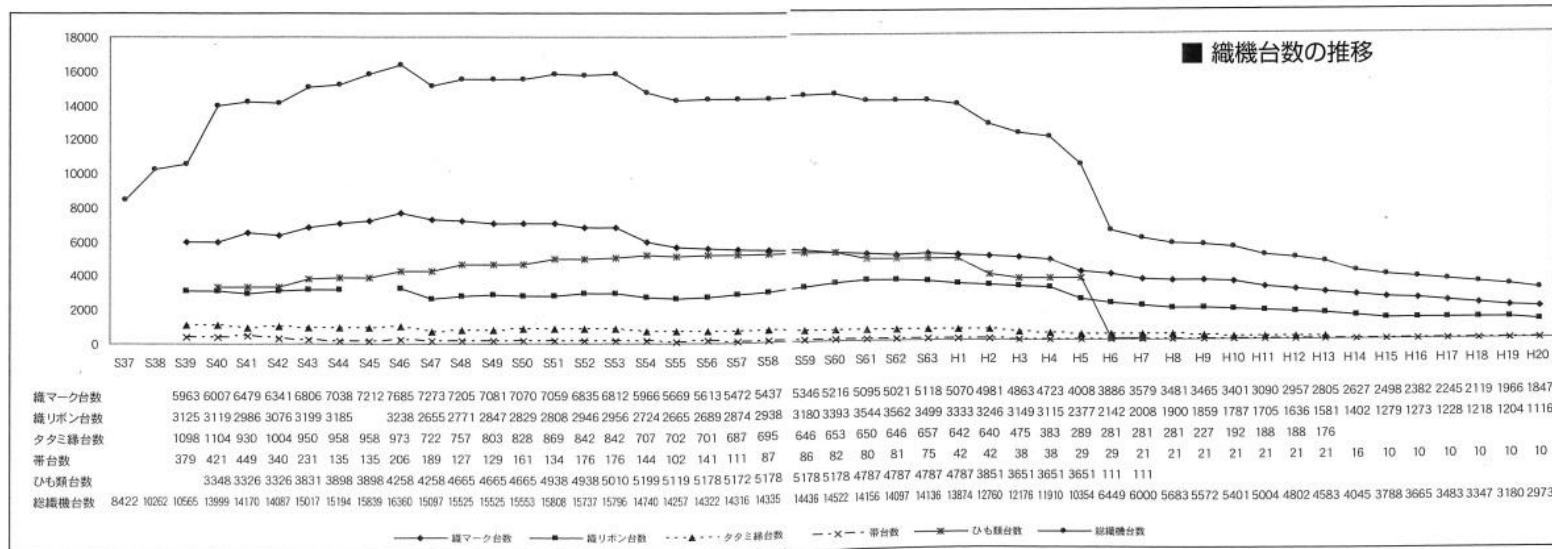
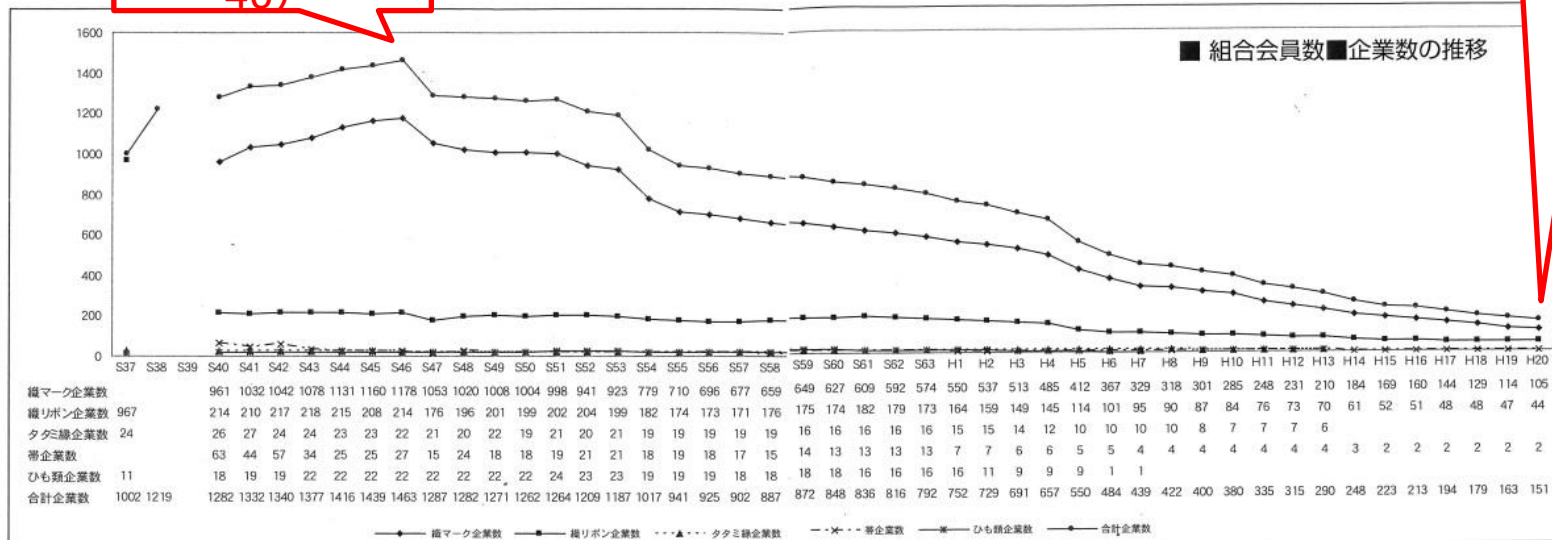
勲章のタグ

女性の洋装等も

福井県繊維資材工業組合統計

1463 軒
1971 (昭
46)

151軒
2008 (平
20)



商品リボン



入っていた 製品傳票 昭和15年

「岩橋」「千代田リボン製織所」
「昭和15年6月15日」
「パナマ用 昭和14年11月30日」

千代田リボン 製織所

No.

製品傳票

昭和 15 年 6 月 15 日

注文先	トウ 合	
品 號	1177	號
品 種	夏用	
幅	1/2	吋
數 量	74	碼
仕掛號	1674	號
機 號	34	號
回 數	1	回
個 數	1	個
目 方	4	
單 價	円	
金 額	円	
織 工		

千代田リボン製織所

Do not destroy this Slip. It must be presented in case any adjustment connected with this transaction be necessary

P. H. Macy & Co.

MADE BY AMERICAN SALES BOOK CO., LTD., ELMSIRA, N. Y.

4

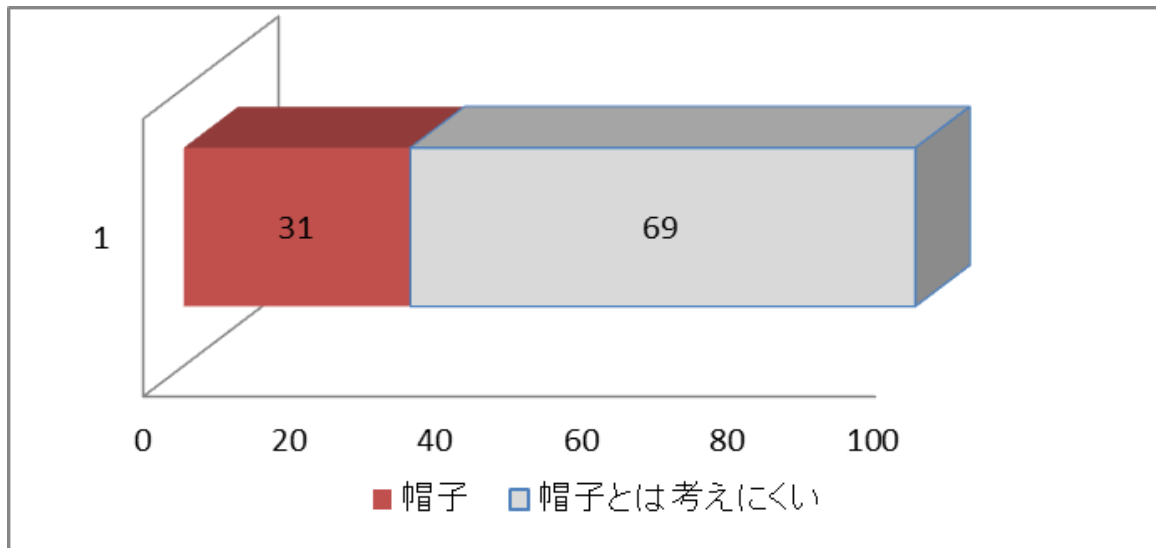
ENCLOSE IN PACKAGE

29	07
39	10
39	10
33	08
07	08
37	10

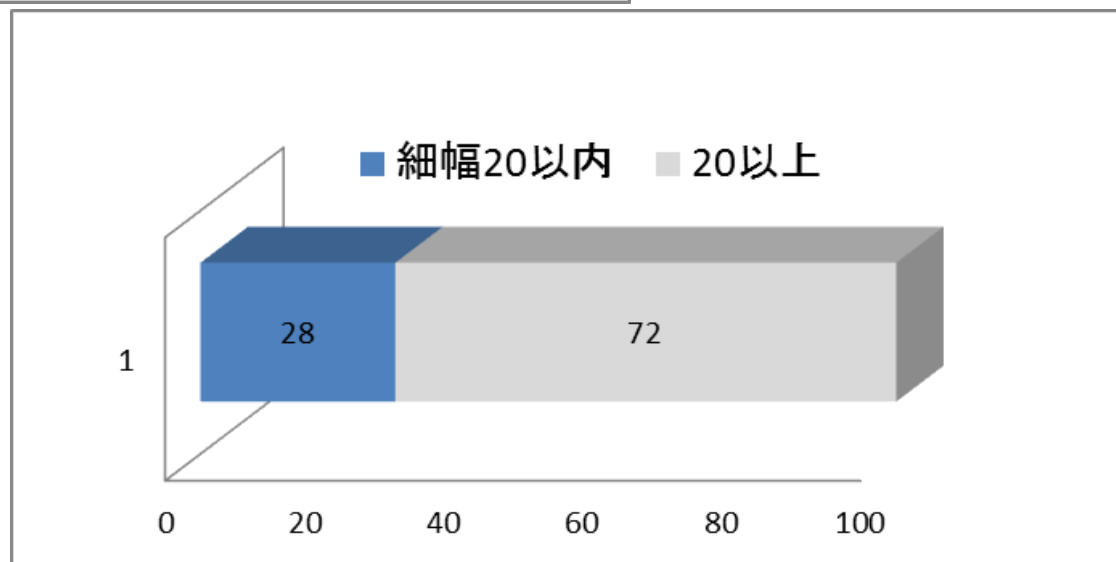
DUPLICATE

79037-44

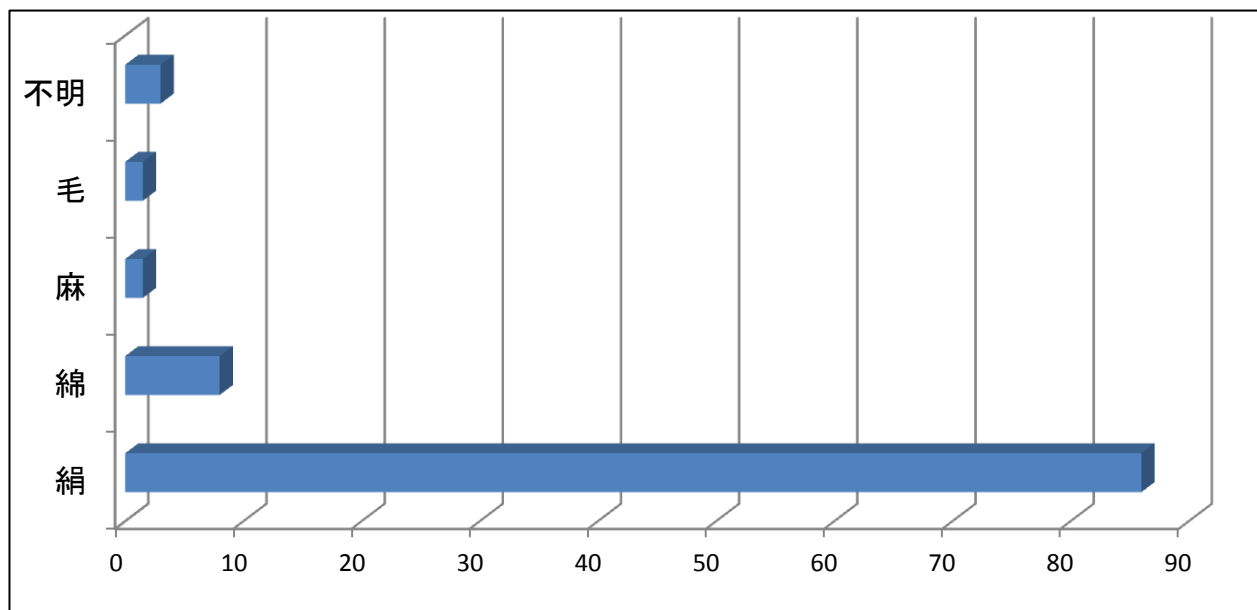
帽子用は、3割程度



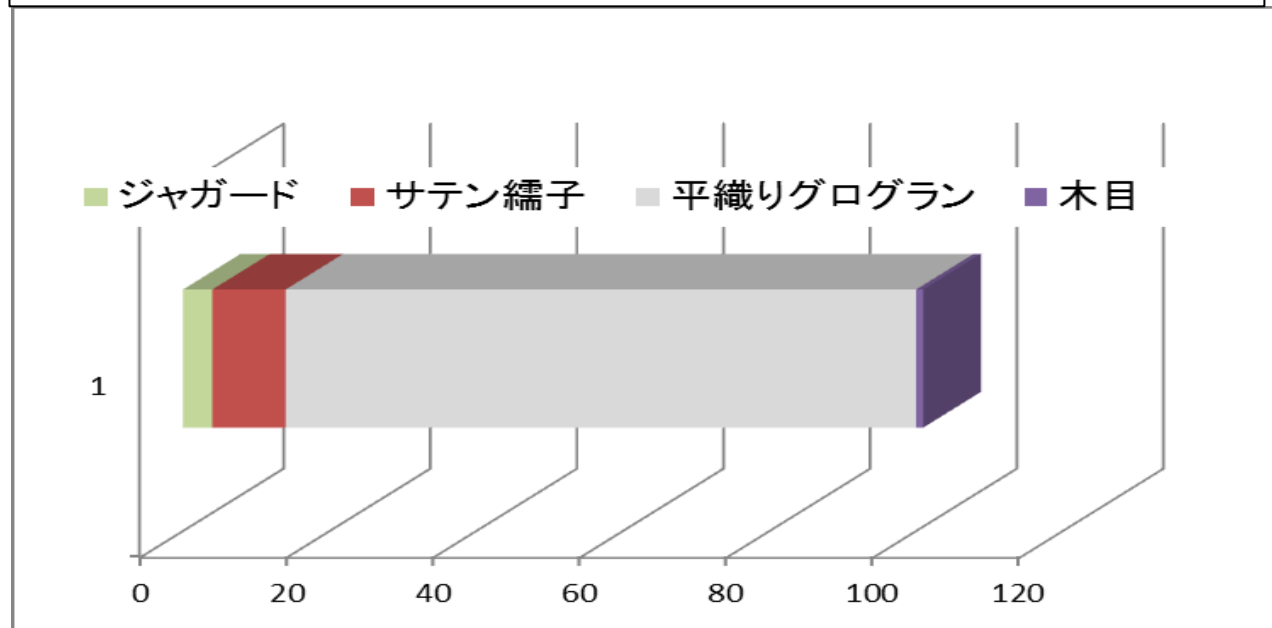
リボンの
幅は、20mm
以上が7割



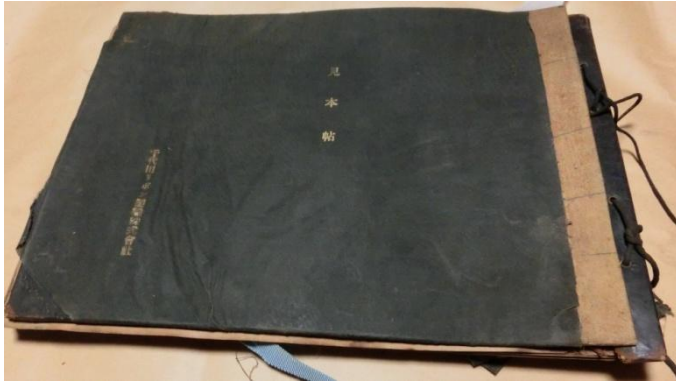
材質は、
絹が
8割以上



織り方は、
平織りが
8割以上



見本帖リボン

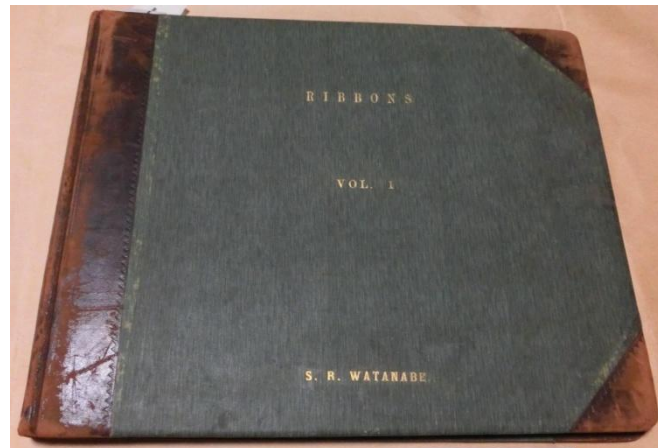


B29 見本帖 千代田リボン製織(株)

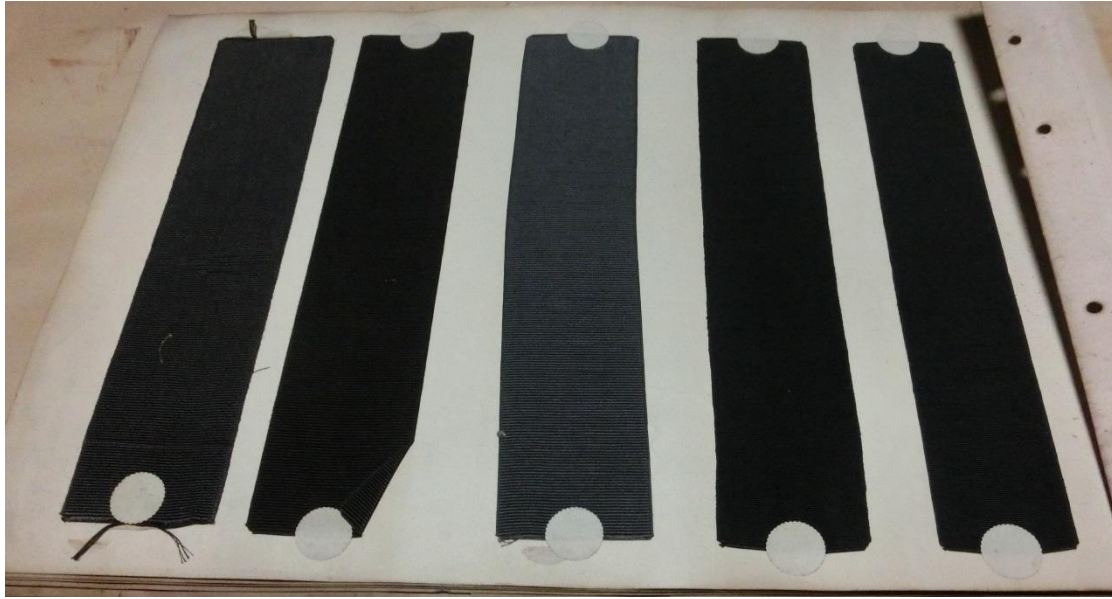


B21 束髪見本帖

B18 RIBBON VOL.1
S.R. WATANABE



B15 見本帖 参所品



見本帖リボン

B30-09

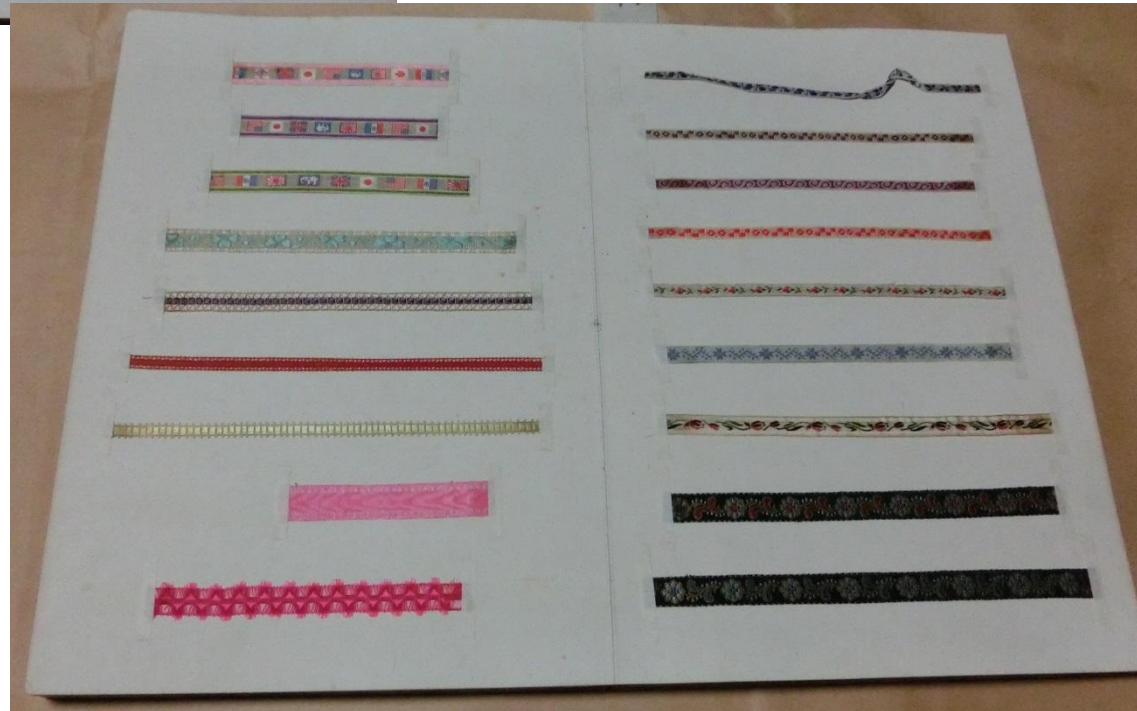


B30-11

見本帖リボン



B17-05



B17-03



B26-6



B26-21



B27-8



B27-21



B27-31

Mail Coach

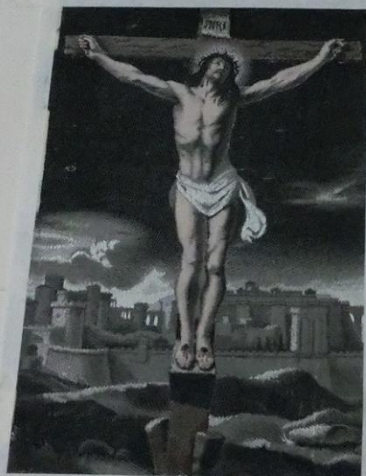
WERE LIVING FAST THE GOOD OLD DAYS
OF BATTING WHEELS
AND GALLANT GREYS!
WERE LIVING FAST THE LUGGAGED ROOF
THE WHISTLING GUARD
AND RINGING HOOF.



THE ENGLISH STAGE
AND HIGH-BRED TEAMS
WILL SOON EXIST BUT IN OUR DREAMS!
AND WHIRLING MAIL
OR STARTLING HORN
NE'ER CHEER THE NIGHT,
NOR ROUSE THE MORN.
AH! WELL-A-DAY! NO CRACKING LASH,
NO CHAMPING BIT! NO RESTLESS DASH,
NO "PULL UP!" AT THE
"CROSS" OR "CROWN"
"MID ALL THE GOSSIPS OF THE TOWN;
FOR TIME, WITH DEEP
RAILROADED BROW,
CHANGES ALL THINGS
BUT HORSES, NOW.



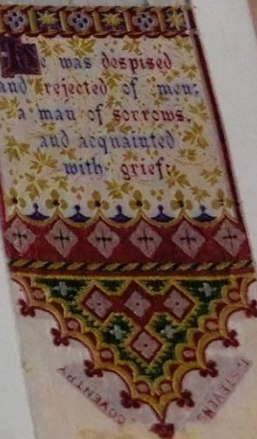
By permission of W & D Lowrey, London



By permission of W & D Lowrey, London



He was despised
and rejected of men;
a man of sorrows,
and acquainted
with grief.





B16-6

織ネーム (束髪見本帖にあり) ジャガード織

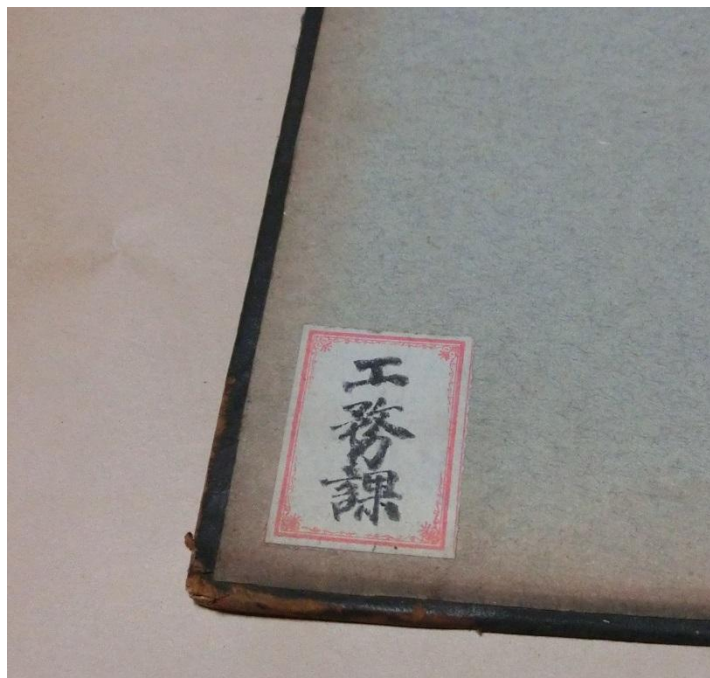


三越呉服店

1904（明37）年～1928（昭3）



千代田リボン製織所名の入った見本帖のうち2冊
に、
「工務課」および「仕上部」と書かれたものが
あった



B30-64

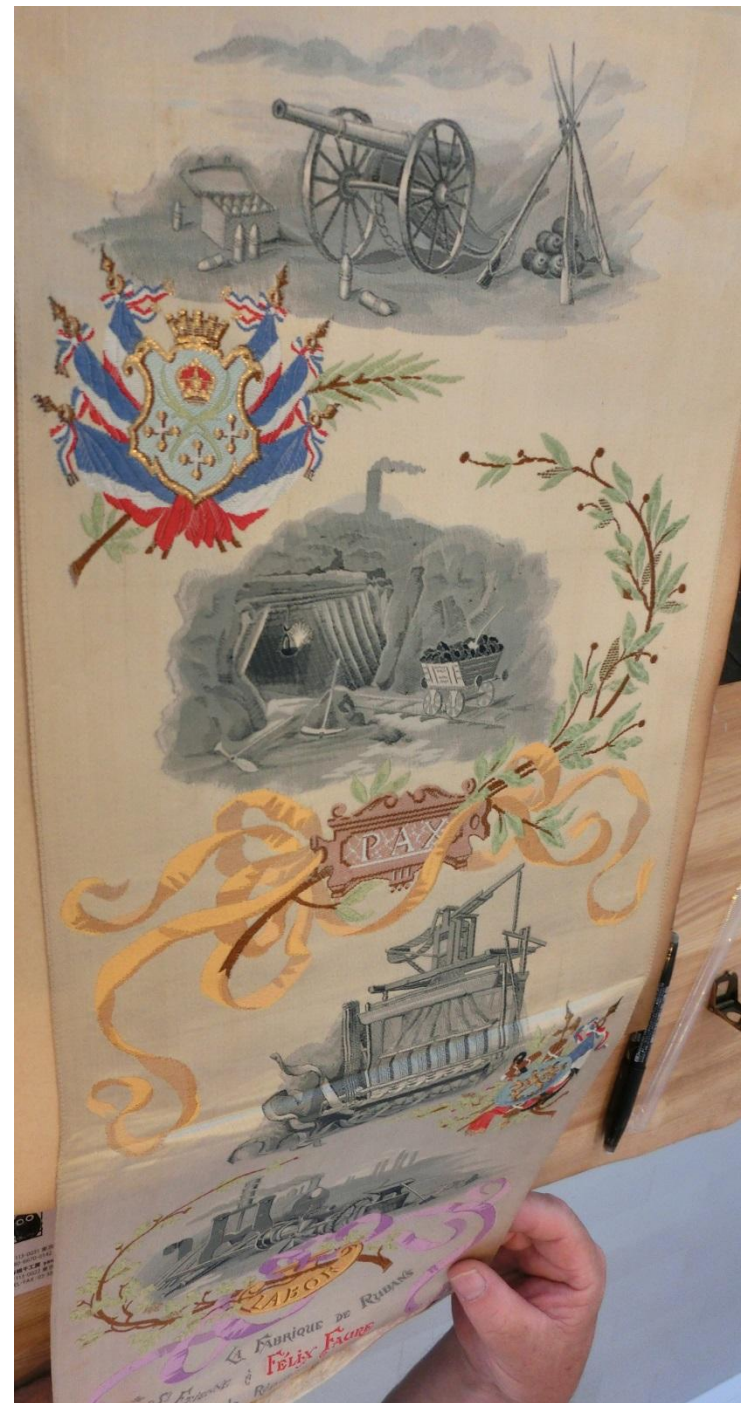


B31-60

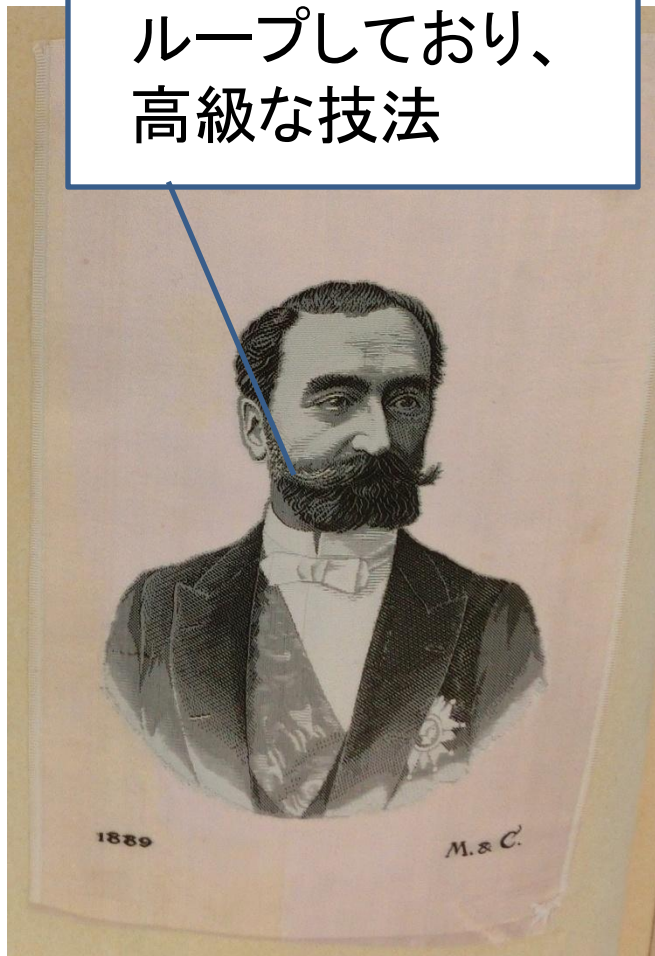
サンテチエンヌ市 (Saint-Étienne) (フランス)

の エンブレムリボン

市の主要産業
武具・鉱山・織機
1898年



ひげ部分
ジャカード織
ループしており、
高級な技法





B27

アメリカ・フランスらしき国旗もありますが、
日英同盟(1902)?リボン



サンテチエン
又美術館リボ
ンと同類

B16-4



1880-90年頃 **リヨンで流行した黒地リボン**

黒地；繻子織 花；縫取織

フランスのリボン-サンテチエン又美術館-学習研究社(1981)



サンテチエン
ヌ美術館リボ
ンと同類

B18-15

19世紀後半 **経糸に捺染 モアレ模様**
フランスのリボン-サンテチエンヌ美術館-学習研究社
(1981)



‘客先の記述’

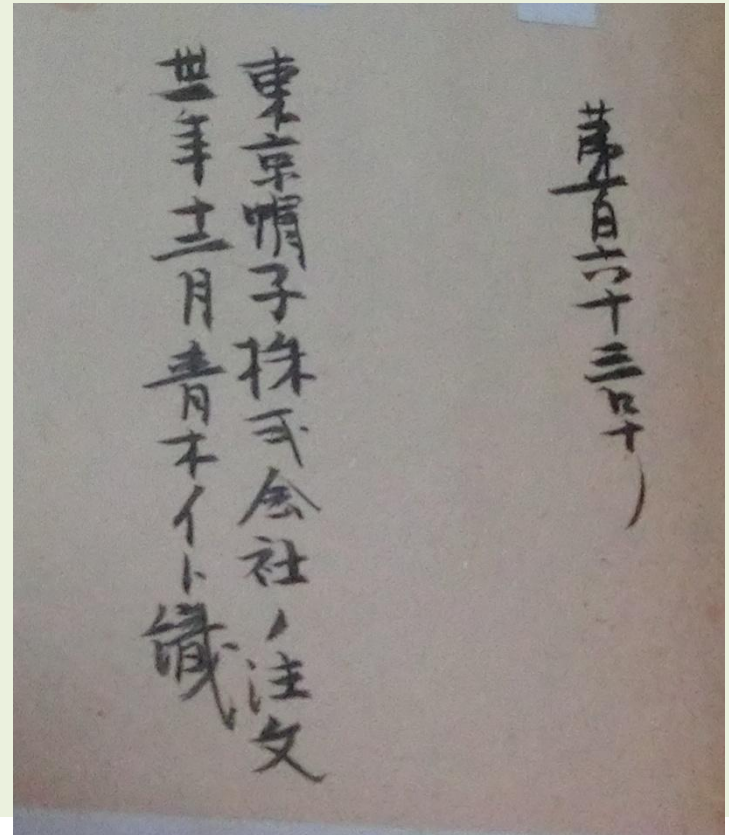
東京帽子／齋藤メリヤス製造工場の注文（明治と考えられる）31年10月織りなど／大阪濱谷ノ注文／大黒屋光之助注文／東京リボン商会

‘年代’

（明治と考えられる）

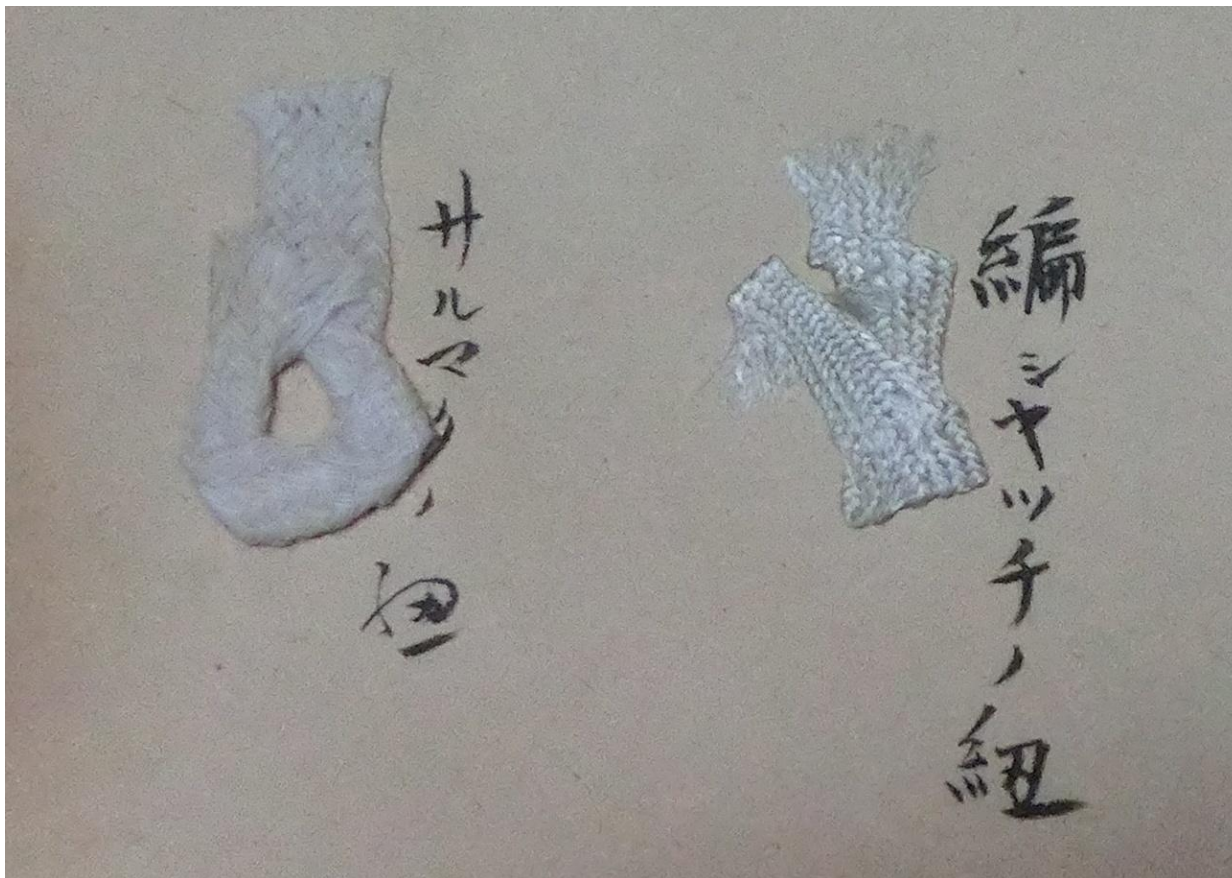
30年、31年製織

／40年、41年製織



‘用途の記述’

編シヤッチノ紐／サルマタノ紐



‘職人名’

青木道三／青木トミ／青木イト／富岡クラ／
堀越トク／大貫カエ

‘織機番号’

第六号機／第十号機／第十一号機／第十二
号機

‘原料’

経四十二ノ撚糸 緯毛糸十八ヤードニ付キ三
十四匁ノ割

‘定価’ 一ヤール四銭五厘

リボン現品の調査のここまでの到達点

細幅織物は、一般の織物産業とは、別世界

リボン現品については、特に見本帖は、貴重なものであり、現時点での収集は困難である

これだけのコレクションは、資力、労力を含めた強い意志が必要。ここに渡辺四郎の「日本国内でリボンを製作し、普及させる」という強い熱意を感じる



束髪

千代田リボンの操業と年代は重なり、また織りや色は見本帖に存在

「明治末期がリボンの最盛期。女子学生束髪リボン、編み上げ靴、パラソルが定番。看護婦の正装に黒リボンは欠かせない。肩帯も。まさにリボンは近代化の象徴。」



風俗画報

1889 (明22) 年2月
~1916 (大5) 年3月

明33年、束髪用リボンは淡色が多く、木地は木理（木目）の舶来品。幅は1~1.5インチ。

明40年、リボンの幅広くなり、流行は、無地、木目、色はオリーブ、紅、紺、紫。肉厚なものから絹、紗、すかし織、反対にベルベットも人気。

明42年には、**関西では、女学生のリボンは1インチどまりで、東京のような3,5,6インチのような幅広なものは少ない」**

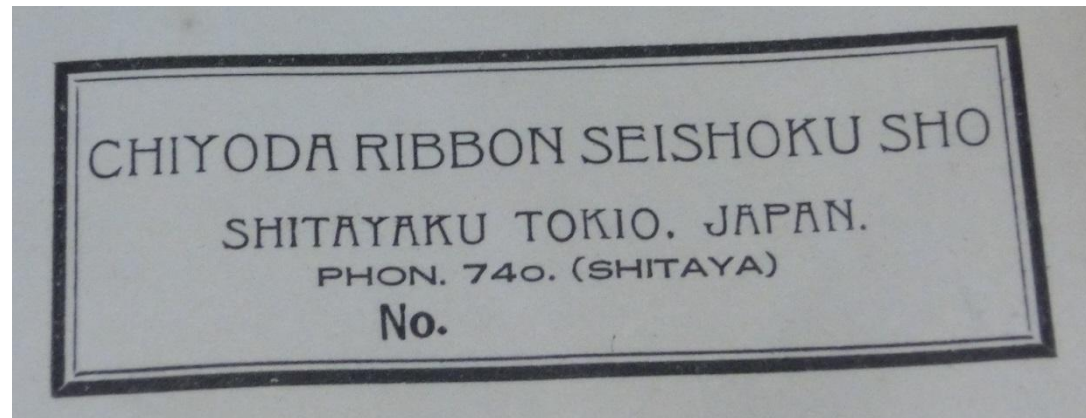
石井彰(文化女子大学教授)「歴史からみたリボンと服飾」および「リボン写真図版」フランスのリボン-サンテチエンヌ美術館-学習研究社(1981)

東京のリボン産業の質の高さ、需要の多さを感じる。

岩橋リボンで国産の生産が始まったとされる。岩橋の跡を継いだ千代田リボンも当時のリボン生産の中心だった可能性もあるのではないか。

川崎リボン川崎社長は、見本帖から「ここは、相当大きな工場だった」といわれる。

しかし、現リボン産業の方々は「千代田リボン製織所名は、知らない」と答えられる。戦後まで生産を続けていたにもかかわらず、リボン産業界から、なぜ忘れ去られることになったのかは謎である

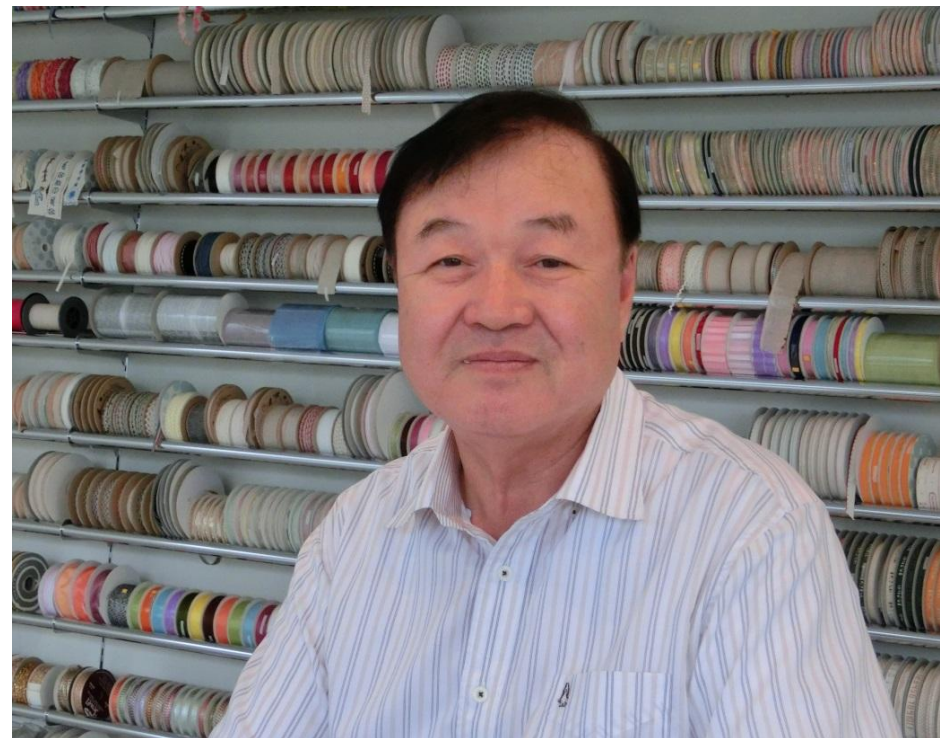


謝辞

旭プロセス製版、澁澤倉庫、地元町会各位、鈴木家の皆様、川崎健太郎様、川原正和様、玉川寛治様、東日本繊維資材協同組合、三越伊勢丹ホールディングス、福井県産業振興課、および保存に協力いただいた町の皆様、末筆ですが、発表の場を与えてくださった産業考古学会に深謝いたします。



東京リボン(株)川原正和会長



川崎リボン(株)川崎健太郎社長

対象資料

見本帖類（15見本帖参所品／16見本帖参考品／17見本帖／18RIBBONS（リボン）渡辺四郎名入り／20細巾類／見本帖／21束髪見本帖二／22舶来見本帖と同種だが題名欠落／23舶来見本帖／24舶来見本帖／25舶来見本帖／26手製の大判スクラップタイトルなし／27手製の大判スクラップタイトルなし／28見本帖／29見本帖／30見本帖／31見本帖）

商品約210本のリール状の商品リボン

参考文献

- ・石井彰（文化女子大学教授）「歴史からみたリボンと服飾」および「リボン

写真図版」フランスのリボン-サンテチエンヌ美術館-学習研究社（1981）

- ・大塚久雄 18世紀イギリス文化の特質—オランダ織機を通じてみた—

（1980年齋藤勇博士記念学術講演）

- ・谷中のこ屋根会「谷中の『のこぎり屋根』」のこ屋根編集室2014年
- ・地域雑誌「谷中根津千駄木」谷根千工房1984～2009年
- ・「東京近海遊覧案内」（渡辺松溪著）（1914（大3））
- ・福井県繊維資材工業組合45周年誌（2009）